

宮崎大学テニュアトラック（TT）教員のテニュア審査について

1. 審査時期

着任5年目（TT教員が希望し、所定の申請を行えば、4年目のテニュア審査も可能とする。）
注）育児休業等を利用し、研究期間が短くなったTT教員の審査時期については、別途検討する。

2. 審査方法

テニュアトラック教員選考評価委員会において、書面およびヒアリングで評価し、本学における基盤的教育研究分野でのリーダーとなる人材であるかを評価し、本学におけるテニュア資格の有無について審査する。

3. 審査用提出書類

テニュア審査申請書

様式1-B：研究成果報告書（テニュア審査用）

様式2-B：自己評価分析表（テニュア審査用）

4. 審査項目

上記の提出書類とヒアリングの内容に従って、以下の項目について評価する。

様式3-B：審査用評価表（テニュア審査用）

【テニュア審査における審査項目】

①自己評価

採用時に掲げた到達目標の達成に向けた進捗状況等に対する自己評価

②研究業績

注）研究業績の評価における論文等の数は目安であって、絶対的なものではない。テニュア審査においては研究論文の内容が評価される。

これまでの研究業績が、配属予定の学部が求めるレベルを超えていること。かつ、理系TT教員にあつては、本プロジェクトでの研究であることが明記された英文原著論文（あるいは本人が採択後に行った研究が含まれていることが証明できるもの）が、国際的に高い水準の雑誌に5編以上掲載されていることが望ましい（印刷中を含む。ただし、論文が受理されたことを証明する書類を添付すること）。その中に筆頭著者（あるいは責任著者）として当該研究分野において高く評価されるジャーナルに掲載した論文が2編以上含まれることが望ましい。ただし、トップジャーナル[※]に筆頭あるいは責任著者として掲載した論文がある場合は、2編にこだわるものではない。人文社会科学系TT教員にあつては、原著論文（英文あるいは和文）、著書等を含めるものとし、総数が5編[§]以上あることが望ましい。（なお、単著の著書は内容に応じて2～3編に換算することがある。）

※ トップジャーナルとは、Natureやその姉妹誌などのような、極めて評価が高い雑誌をいう。

§ 人文社会科学系における5編は以下のものが含まれる。

1. 学術書の出版に実績のある出版社等から発行された学術図書等（単著が望ましい）
2. 当該分野で高く評価されている学会、学術出版社、学術団体等が発行する原則として審査制度のある論文誌（学会誌）及び論文集（学会等における発表要旨の形式のものは業績に含めない。）

注）審査の対象となる論文等は、論文投稿日が本学に着任後となっており、TT教員の所属が「宮崎大学テニュアトラック推進機構」となっていることが必要である。着任前の所属で、脚注で「現所属 宮崎大学テニュアトラック推進機構」となっている論文等は認めない。

③研究の自立性

- 1) 学会発表や論文等の発表状況（筆頭著者あるいは責任著者としての発表状況）
- 2) 科学研究費補助金など外部資金の獲得状況
- 3) 受賞歴、特許の出願状況
- 4) 国際学会等における発表、海外研究者との交流・研究ネットワークの形成

④リーダーシップ

- 1) 学内外の研究者ネットワークの構築（共同研究実績（海外研究者との交流実績を含む））
- 2) 学内でのセミナーや公開研究成果発表会等の企画・運営
- 3) 学外（学会等）でのシンポジウムや研究会等の企画・運営
- 4) 博士研究員へのキャリアパス支援（博士研究員がいる場合）

⑤学生の研究指導・教育力

- 1) 指導学生の国内外への学会発表や発表された学術論文の有無
- 2) 学部及び大学院における授業の担当とその評価内容（学生による授業評価結果を参考とする。）

⑥その他特筆すべき事項（社会貢献に関わる活動など）

⑦将来への展望

5年間の実績を踏まえて、今後の本学での研究・教育における展望（本学の発展にどう貢献できるかの展望を含む。）

5. その他

- 1) テニュア審査においてテニュアの資格なしと判定された者の処遇については別に定める。
- 2) 4. に記載した【テニュア審査における審査項目】は、平成25年度及び平成26年度に採用したTT教員へ適用するものとする。